

指定管理者評価シート

事業名	札幌芸術の森等運営管理費	所管課(電話番号)	市民文化局文化部文化振興課(211-2261)
-----	--------------	-----------	-------------------------

基本情報

1 施設の概要			
名称	札幌芸術の森 本郷新記念札幌彫刻美術館	所在地	【札幌芸術の森】 南区芸術の森2丁目 【札幌彫刻美術館】 中央区宮の森4条1 2丁目
開設時期	【札幌芸術の森】 昭和61年7月 【札幌彫刻美術館】 昭和56年6月	延床面積	【札幌芸術の森】 389,653.82㎡(敷地面積) 【札幌彫刻美術館】 本館374.10㎡、記念館437.07㎡
目的	<p>【札幌芸術の森】 芸術文化都市さっぽろのシンボルとして、個性ある新しい札幌文化を育てることを目指し、「制作・研修機能」、「情報・交流機能」、「鑑賞・発表機能」を持つ新しい芸術文化の場を創出し、札幌が誇りとする豊かな大自然と、都市、芸術、文化が調和した環境の形成を目的とする。</p> <p>【札幌彫刻美術館】 本市ゆかりの彫刻家である本郷新の業績を顕彰するとともに、本市における彫刻を中心とした美術の振興を図り、市民の文化芸術活動の発展に寄与することを目的とする。</p>		
事業概要	<p>【札幌芸術の森】 札幌芸術の森園内各施設の管理運営、札幌芸術の森園内各施設を活用した各種芸術文化振興のための主催事業の実施。</p> <p>【札幌彫刻美術館】 美術に関する展覧会及び美術振興のための主催事業の実施並びに施設の管理運営。</p>		
主要施設	<p>【札幌芸術の森】 芸術の森センター、札幌芸術の森野外美術館、佐藤忠良記念子どもアトリエ、札幌芸術の森美術館、アートホール、工芸館、各種工房、各種アトリエ、有島武郎旧邸、野外ステージ等</p> <p>【札幌彫刻美術館】 本館: ギャラリー、展示室1～5、研修室、屋外展示スペース 記念館: 展示室1～4、ロビー</p>		

2 指定管理者	
名称	公益財団法人札幌市芸術文化財団
指定期間	令和5年4月1日～令和10年3月31日
募集方法	<p>非公募</p> <p>非公募の場合、その理由：札幌芸術の森は札幌市における文化芸術振興の中核となる施設の1つであり、指定管理者には施設の特性を活かした多様な事業を継続して実施するための専門的知識や経験、幅広いネットワークが必要であるとともに、管理運営に当たっては、長期的な視野に立った継続的な事業運営や人材育成、ノウハウの蓄積などが特に必要となるほか、施設における事業内容の企画立案等を本市と指定管理者とが一体となって行う必要があることなどから、非公募とした。</p> <p>彫刻美術館は、(財)札幌彫刻美術館と(財)札幌市芸術文化財団との統合の経緯から、芸術の森との一体的な管理が必要であり、団体と施設の関係が密接不可分にあること、また、施設における事業内容の企画立案等を本市と指定管理者とが一体となって行う必要があることなどから、非公募とした。</p>
指定単位	<p>施設数：2施設</p> <p>複数施設を一括指定の場合、その理由：施設の設定目的が類似し、事業領域が関連している札幌芸術の森と札幌彫刻美術館を一体的に管理していくことにより、管理面での経費節減効果が期待できるとともに、両施設の連携を更に深め、より魅力的な事業や、美術の普及振興を図ることが可能であることから、札幌芸術の森と彫刻美術館を一括し管理している。</p>
業務の範囲	施設維持管理業務、貸館業務(利用料金制度)、施設における事業の計画及び実施に関する業務
3 評価単位	<p>施設数：2施設</p> <p>複数施設を一括評価の場合、その理由：2施設を一体的に管理しており、指定管理費についても両施設で一体となっていることから、一括評価としている。</p>

令和5年度管理業務等の検証

項目	実施状況	指定管理者の自己評価	所管局の評価
1 業務の要求水準達成度			
(1) 統括管理業務	<p>管理運営に係る基本方針の策定</p> <p>【札幌芸術の森】</p> <p>施設の設置目的と財団が策定した中期経営計画に基づき、第4期の基本方針を継承しつつ、検証、見直しを行い、札幌市文化芸術基本計画やその他の文化施策に対応し、次の5つの基本方針を策定している。</p> <p>あらゆる人々が文化芸術に容易に触れることができる多様な事業展開(社会包摂の実践)</p> <p>様々なアートシーン、ステップに応じた担い手の育成・支援(すそ野拡大、人材育成)</p> <p>新たな切り口による魅力発信とにぎわいの創出(施設の利用促進)</p> <p>人々が集い交流する場、地域拠点としての機能の充実(場の提供、交流の輪の創出)</p> <p>安全で利用しやすい施設づくり(利用者目線の施設整備)</p> <p>【本郷新記念札幌彫刻美術館】</p> <p>札幌出身の彫刻家・本郷新の顕彰及び彫刻を中心とした美術の振興を図り、本郷新の残した作品・施設や生前の意思を引き継ぎつつ、幅広い年齢層を対象に美術館の運営をさらに進展させるため、財団が策定した中期経営計画に基づき、次の4つの基本方針を策定している。</p> <p>本郷新作品と関連資料の収集・保管、調査・研究、展示・公開</p> <p>彫刻を中心とした芸術文化の魅力を積極的に発信</p> <p>利用者の拡大と次代の担い手の育成</p> <p>市民に開かれ、立地環境を活かした施設運営</p> <p>平等利用に係る方針等の策定と取組実績</p> <p>【札幌芸術の森】</p> <p>利用受付は、利用者間の公平を図る観点から、受付開始日、締切日及び開始・終了時刻を定めているほか、受付は先着順とし、全ての利用者に対して公平な受付業務を行った。</p> <p>受付の流れ、関連規則、施設の空き状況についても、分かりやすく十分に説明をするほか、ホームページ上で施設の空き状況を確認できるようにした。</p> <p>【本郷新記念札幌彫刻美術館】</p> <p>平等利用を確保するために、その方針及び取組項目を検討するとともに、研修会等を通じて、留意事項等について職員相互に基本的な考え方や心構えを確認した。</p>	<p>札幌芸術の森の設置目的を実現するための基本方針とすることができた。</p> <p>本郷新記念札幌彫刻美術館の設置目的を実現するための基本方針とすることができた。</p> <p>関連規則に従い、利用者への公平性を保ちながら受付業務を行うことができた。</p> <p>関連規則に従い、利用者への公平性を保ちながら受付業務を行うことができた。</p>	<p>A B C D</p> <p>両施設とも、運営協議会や来館者アンケートによる意見を踏まえた業務改善や事業展開を図っており、サービスの向上に努めている。</p> <p>また、間引き節電や待機電源の削減等、様々な節電等対策や環境に配慮した取組を行っており、本市の要求水準を満たす適切な管理が行われている。</p>

地球温暖化対策及び環境配慮の推進

【札幌芸術の森】

「札幌市生活環境の確保に関する条例」に基づき、不要な電気・水・ガス・灯油等の節約に努め、二酸化炭素排出の抑制に取り組んだ。

冷暖房について

夏場28℃、冬場24℃の温度設定で継続的に節電を実施した。また、職員を対象にクールビズを促進した。

節電について

- ・従来より実施しているセンター事務所の照度50%設定やセンター、アートホールロビー等の照明設備の間引き点灯を継続して実施した。センター事務所では休憩時間の照明を必要最低限なレベルまで間引き節電に努めた。
- ・電力需要がひっ迫する野外ステージの大型イベントの開催時に主催者手配により発電機を用意し、電力デマンドのピークカットに努めた。
- ・余分な電化製品のコンセントを抜く等、待機電源の削減に努めた。

省エネについては照明設備の間引き点灯、冷暖房の一部カットなどの対策を行い、特に電力は、日頃から使用量の管理に努めた。

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

「札幌市生活環境の確保に関する条例」に基づき、不要な電気の使用を控えるとともに、水、灯油、ガス等の節約に努め、二酸化炭素排出量の低減に努めた。

暖房器具・照明等の使用を抑え、節電に努めることができた。

管理運営組織の確立(責任者の配置、組織整備、従事者の確保・配置、人材育成)

【札幌芸術の森】

管理業務の一層の効率的運用、中長期での組織運営のあり方などについて検討し、必要に応じた適切な採用・適正部署への配置を行った。

統括責任者として芸術の森事業部長を、職務代理者として芸術の森事業部管理担当部長を配置している。

芸術の森美術館に、学芸員の資格を有する職員9人を配置している。

木工房においては職員の急な退職により臨時休館日を設ける等の対応が必要となったが、速やかに職員募集を行う他、運営体制の見直しを図ることで、影響を最小限に留めた。

各職員の習熟度に応じた計画的な研修を行い、スキルアップに努めた。

(4月・5月)

新採用研修、コンプライアンス研修

安全運転講習

(6月・7月)

普通救命(AED)講習

(10月)

管理職マネジメント研修

(11月)

コンプライアンス研修

(3月)

情報セキュリティ研修

(通年)

防火管理講習

職長・安全衛生管理者講習

配置計画に関しては、職員との面談等を通じ適性を考慮しながら適切な人員配置を行った。業務の効率化に加え、職員の業務に対する意識向上の動機づけを図ることができた。また、前年度に引き続き、全職員必須研修として、コンプライアンス研修を行うなど、個人情報の取扱い及び服務規律の確保について職員の意識向上に努めた。

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

統括責任者として彫刻美術館課長を、職務代理者として彫刻美術館事業係長を配置しているほか、業務分担、連絡系統等を定めた。

本郷新記念札幌彫刻美術館に、学芸員の資格を有する職員2人を配置している。

各職員の習熟度に応じた研修を計画的に行い、スキルアップに努めた。札幌芸術の森との合同で職員研修を行ったほか、館独自で現場研修や各展覧会ごとにパート職員を含めた研修を実施した。

(4月・5月)

新採用研修、コンプライアンス研修
現場研修「鈴木吾郎悠久を舞う」展

(7月)

普通応急手当講習

(9月)

現場研修「生命体の存在」展

(10月)

管理職マネジメント研修

防火管理研修

(11月)

コンプライアンス研修

(12月)

現場研修「かく語りき本郷新」展

自衛消防訓練

(3月)

情報セキュリティ研修

管理水準の維持向上に向けた取組

【札幌芸術の森】

財団内LANによるグループウェアを活用し、事業部内及び財団全体の職員間で情報共有を行った。

園内に点在する施設間においても、来園者と接する機会の多い委託業者(受付、警備、施設設備管理、清掃)と職員間での情報共有ツールとして、上記グループウェアソフトや内線、携帯電話による連絡網もあわせて活用した。

安定した管理体制と来園者へのサービス向上を目指し、職員と常駐委託業者が事故や問題点、今後の予定など、お客様対応に必要な情報の共有や意見交換を行うための会議を毎週、実施した。

配置計画に関しては、職員との面談等を通じ適性を考慮しながら適切な職員配置を行った。各職員の資質の向上のため、機会をとらえて研修会や講習会への参加を進めるとともに、実務を通じた現任訓練も必要の都度実施した。美術館内の会議を適切に実施し、事業内容や各担当業務に関する情報の共有を図った。また、前年度に引き続き、全職員必須研修として、コンプライアンス研修を行うなど、個人情報の取扱い及び服務規律の確保について職員の意識向上に努めた。

事業部間や事業部内での情報共有をスムーズに行うことで、来園者へのよりきめ細かな対応と事前の利用者への確認等を円滑に行うことができた。集客イベント等の情報共有を園全体にもれなく行うことができ経緯を残せるため、園全体での混雑状況の把握や広報に活かすことができた。

<p>【本郷新記念札幌彫刻美術館】</p> <p>財団内LANによるグループウェアを活用し、美術館内及び財団全体での情報共有を行った。</p>	<p>事業部間や事業部内での情報共有をスムーズに行うことで、来館者へのよりきめ細かな対応を行うことができた。</p>
<p>第三者に対する委託業務等の管理(業務の適正確保、受託者への適切監督、履行確認)</p> <p>【札幌芸術の森】</p> <p>計画書、仕様書に基づき、清掃、庭園管理等の業務を専門業者へ再委託し、適正な業務遂行を実施した。</p> <p>第三者に対する委託に関して、入札等による適切な契約を行うことにより、経費節減と業務内容の充実と向上に努めた。なお、経費節減等が期待できる一部の業務については、複数年契約を締結した。</p> <p>受託者の業務については立会を行うとともに作業完了報告書の確認と業務内容の検査を実施し、適正な業務を遂行させることができた。</p>	<p>規程類に基づき、適切な契約を行った。</p>
<p>【本郷新記念札幌彫刻美術館】</p> <p>計画書、仕様書に基づき、庭園管理等の業務を専門業者へ再委託し、適正な業務遂行を実施した。</p>	<p>規程類に基づき、適切な契約を行った。</p>

札幌市及び関係機関との連絡調整(運営協議会等の開催)

【札幌芸術の森】

札幌芸術の森運営協議会の開催

開催回	協議・報告内容
第1回 (6月8日)	(1)令和4年度管理運営業務の報告について (2)令和5年度管理運営業務の経過報告について (3)その他
第2回 (9月20日)	(1)事業体験(野外美術館謎解きプログラム) (2)管理運営業務の経過報告について (3)その他
第3回 (12月6日)	(1)管理運営業務の経過報告について (2)その他
第4回 (3月21日)	(1)管理運営業務の経過報告について (2)その他

<協議会メンバー>

地域：芸術の森地区まちづくりセンター所長
利用者：施設利用者
有識者：放送局、コンベンションビューロー、大学教授、MICE団体
ボランティア団体：野外美術館解説ボランティア
札幌市：市民文化局文化部長
指定管理者：芸術の森事業部長

政策推進連絡会の開催

開催回	協議・報告内容
第1回 (8月9日)	(1)各施設の重点取組事項について (2)予算編成時における文化部との連携 (3)札幌市文化芸術基本計画について (4)その他
第2回 (1月12日)	(1)今年度の予算執行見込と次年度予算について (2)次年度の事業展開について (3)令和6年度文化部予算について (4)札幌市文化芸術基本計画の概要、進捗状況 (5)その他

当施設の運営について、主催事業や貸施設、広報等の多岐にわたる項目について、様々な分野の方々からご意見をいただいた。

所管部局と直接に協議、情報交換ができる機会を有意義に活用し、次年度の事業展開、収支状況、現在抱えている問題などを共有することができた。令和5年度より年に2回実施した。

【本郷新記念札幌彫刻美術館】
本郷新記念札幌彫刻美術館運営協議会の開催

開催回	協議・報告内容
第1回 8月22日	・令和4年度事業報告 ・令和5年度事業経過報告(4～7月)
第2回 12月12日	・令和5年度事業経過報告(8～11月) ・令和6年度事業企画状況
第3回 3月27日	・令和5年度事業経過報告(12～3月) ・令和6年度事業企画状況
<p><協議会メンバー></p> 利用者団体:札幌市立大倉山小学校PTA 利用者団体:札幌彫刻美術館友の会会長 地元自治会:宮の森明和会会長 学識経験者:札幌市立三角山小学校校長 学識経験者:彫刻家 札幌市:市民文化局文化部文化振興課課長 指定管理者:芸術の森事業部彫刻美術館課長	

政策推進連絡会の開催

開催日

令和6年2月7日 14時30分～15時30分

意見交換等の項目

- (1)今年度の予算執行見込みについて
- (2)次年度の事業展開について
- (3)次年度の文化部予算について
- (4)札幌市文化芸術基本計画の概要、進捗状況について
- (5)「大通情報ステーション」の廃止と「(仮称)大通観光案内・アイヌ文化PRコーナー」の設置について

当施設の運営について、多岐にわたり様々なご意見をいただいた。意見交換を活発に行い、地域利用者や専門家の意見、評価を直接聞くことができた。いただいた意見を広報、事業企画に積極的に活かした。

所管部局と直接に協議、情報交換ができる機会を有意義に活用し、次年度の事業展開、収支状況、現在抱えている問題などを共有することができた。

財務(資金管理、現金の適正管理)

【札幌芸術の森、本郷新記念札幌彫刻美術館】

資金管理については、指定管理業務、自主事業ごとの区分経理を実施しており、公認会計士による外部会計監査を導入している。また、内部監査やセルフモニタリングにより、当財団管理施設をまたいだ相互的なチェック体制を導入している。

現金等の取扱いについては、現金取扱要綱を整備しており、出納員及び分任出納員による一元管理を行っている。また、複数職員でのチェックを行うことで、事故防止に努めた。

要望・苦情対応

【札幌芸術の森】

お客様からの要望・苦情があった場合には、文書や財団内LANによるグループウェア等を活用し、担当課及び関連部署の職員間で速やかに情報共有を図り、対応確認を行った。指摘事項に関しては、担当者間で協議し、利用者の利便性を優先した迅速な対応に努めた。

また、アンケートにて要望のあった事項について、対応なども含めホームページで閲覧できるようにしている。

創作普及課では、利用者の要望が多い木工房と陶工房にて利用者との意見交換会を行い、運用改正などについて議論し、利用者の意見を運用に活かすなど要望対応に努めた。

札幌芸術の森ホームページに寄せられる問い合わせについても、関係部署で情報共有を図り回答した。

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

要望・苦情のあった際は職員間で情報を共有し、迅速に検討・対応した。

代表メールアドレス宛に届いた問い合わせに対しても、情報共有を図り、迅速に回答した。

記録・モニタリング・報告・評価(記録、セルフモニタリングの実施、事業報告、札幌市の検査等への対応、自己評価の実施)

資金管理、現金等の取扱いについては、管理体制を整備することにより、チェック機能を確保した。

来園者からの要望は真摯に受け止め、可能なものは迅速に改善するよう努めた。

来館者からの苦情・要望に対しては、職員間で情報を共有し、適切に対応することができた。

【札幌芸術の森、本郷新記念札幌彫刻美術館】

指定管理業務に関する下記の記録・帳簿等については適切に整備保管した。

- ・管理業務に関する諸規程
- ・文書管理簿
- ・各年度の事業計画及び事業報告書
- ・収支予算・決算に関する書類
- ・金銭出納に関する帳簿
- ・物品の受払いに関する帳簿
- ・各種業務に関する記録書類及び札幌市が必要と認める書類

セルフモニタリングについては、来園者、利用者の満足度を測定するため、アンケート調査を実施した。また、セルフモニタリングや業務・財務検査を通して管理運営に関する自己チェックを実施した。

札幌市による施設の管理運営に関する検査等へは誠実に対応した。

自己評価の実施については、施設の利用状況、主催・自主事業の実施状況等について、毎年度、事業報告書と合わせて札幌市に提出している。

業務実績の整備・保管を適切に行うことができた。

施設運営の維持・改善のため、来園者にアンケート調査を実施し、寄せられたご意見については、速やかに検討し、可能な限り改善した。

施設管理に関する市民からの要望・苦情については、誠実に対応し、札幌市と情報を共有した。

(2)労働関係 法令遵守、雇 用環境維持 向上	労働関係法令遵守、雇用環境維持向上(事故の有無 などの安全衛生面を含む)		A B C D
		<p>【札幌芸術の森・本郷新記念札幌彫刻美術館】</p> <p>適正な内容で36協定を締結したほか、雇用環境の維持向上のため、関係法令に基づき財団諸規則等の見直しを行い、労働基準監督署に届け出た。</p> <p>給与の額や支給方法等の雇用条件については、財団の例規として、職員、契約職員、パート職員の各々について就業規則を定めているほか、職員については別途給与規程を制定し明示している。これらを変更する場合には職員の過半数を代表する者の意見を聴取し、行政官庁への届出を行っている。また、賃金台帳など法定帳簿等も整備している。</p> <p>就業規則を含む例規集は、グループウェアにより、常に各職員が閲覧可能な状態としている。</p> <p>毎月の給与計算や社会保険・労働保険関係の各種手続き等は、財団の総務課が社会保険労務士事務所に委託しており、労働関係法令改正への対応についても、社会保険労務士と相談して行っている。</p> <p>労働安全衛生法及び当財団衛生委員会要綱に基づき衛生委員会を開催し、衛生管理者、産業医とともに労働災害の防止、職員の健康管理及び職場環境の向上に努めている。</p> <p>産業医の選任のほか、顧問弁護士も導入しており、これらの専門家による、心身の健康面、雇用、仕事以外の事柄も含めた個別相談に応じる体制を採っている。また、各種ハラスメント対応のための専用相談窓口を設けている。</p> <p>木工房の管理運営にかかる法令・通知・公示と安全衛生の向上や労働災害防止を目的とする各工作機械のガイドラインについて、業界団体の定期刊行物の購読により情報収集に努めたほか、労働安全衛生法に準拠した木工房管理マニュアルを整備し、より一層安全な工房管理に努めている。</p> <p>労働災害・事故について、8件の労働災害が発生した。</p> <p>労働災害を防止するための対策として、衛生委員会や常駐業者も含めた施設ミーティングの中で注意喚起や必要な情報の共有を日常的に行うほか、職員に順次、労働安全衛生法による職長・安全責任者講習を受講させ、意識向上に努めている。</p>	<p>36協定の内容を遵守するよう、長時間労働の状況把握及び業務配分等に取り組んでいる。</p> <p>雇用環境については、繁忙期と閑散期があることを踏まえ、業務の効率化や人員体制の補強を行うなど、環境を整えるよう配慮している。</p> <p>また、札幌市ワーク・ライフ・バランスplus企業(ステップ3)として認証を受けているほか、6年計画で策定した次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画、及び3年計画で策定した女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画を現在遂行中である。</p> <p>衛生委員会や産業医の職場巡視やミーティング等での日常的、継続的な注意喚起により、労災防止に努めた。</p>

(3)施設・設備等の維持管理業務	<p>総括的事項(利用者の安全確保、市民サービス向上への配慮、連絡体制確保、保険加入)</p> <p>【札幌芸術の森】</p> <p>利用者の安全を確保するため、園内の施設、設備の定期的な点検・維持管理を行っている。 また、管理課職員と常駐委託業者をメンバーとした施設連絡会議を週に1回実施し、施設管理に係る情報共有、安全教育を行った。</p> <p>園内へのヒグマ進入防止のため、園の外周に電気柵を設置し対策を講じている。電気柵の維持管理については、専門業者による早期の設置と定期点検を行うほか、職員による目視点検を日常的に行い、柵の維持や異変の早期発見に注力した。電気柵撤去後の11月28日に熊出没が確認されたが、警備員による警備巡回の強化の他、職員による開園前パトロールなど利用者が安心して利用できる環境の確保に努めた。</p> <p>冬季は、除雪業者と連携をはかり、急な天候の変化などにも迅速かつ細やかに対応し、来園者の利便性が損なわれないようにするとともに、安全の確保にも努めた。車道、園路が凍結している時には砂まきや融雪剤の散布等をこまめに行うとともに注意喚起の掲示を増やし、転倒や事故の防止に努めた。</p> <p>拾得物の取扱いについては、所轄の警察署の助言を得て改訂した拾得物取扱マニュアルにより適切に取り扱っている。また、落とし主に速やかに返却されるよう、拾得物の情報を職員及びスタッフ間で随時共有している。</p> <p>損害賠償保険は継続して、仕様に適合したものに加入した。</p> <p>【本郷新記念札幌彫刻美術館】</p> <p>利用者等の安全確保を第一に対応した。特に、冬期間は転倒防止のための砂まき、雪庇等の落雪事故防止の表示、カラーコーンの設置等を行った。</p> <p>建物の構造上段差が多いため、特に高齢者・障がいのある人に対しては声掛けなどの配慮を行った。</p> <p>損害賠償保険は継続して、仕様に適合したものに加入した。</p> <p>利用者の人身・物損事故は無かった。</p> <p>ボイラー煙突断熱材へのアスベスト含有による暖房停止により、厳冬期の本館の温度維持ができなくなったため、札幌市から貸与されたヒーターなどを活用し、最低限の環境維持に務めた。 また、近隣や関係団体への情報提供を行い、不安解消につとめた。</p>		A B C D

	<p>施設・設備等の維持管理(清掃、警備、保守点検、修繕、備品管理、駐車場管理、緑地管理等)</p> <p>【札幌芸術の森】</p> <p>施設維持管理にあたっては、来園者の安全・快適性を確保して適切に行った。適切な管理を行うため業務委託項目の見直しを行い、清掃や警備等、施設管理に関わる業務、電気・空調設備等の建物保守関係の業務、野外ステージや美術館に関わる管理業務等業務、合計47業務について第三者委託により実施した。</p> <p>主な修繕について 札幌芸術の森センター-地下重油タンク液面計修繕 センター・アートホール間通路石板補修 美術館正面入口前通路補修 アートホール 冷温水一次ポンプ (No.2) 修理 野外美術館の作品は、その設置環境ゆえ定期的な状態の確認、補修を行っている。</p> <p>【本郷新記念札幌彫刻美術館】</p> <p>施設維持管理にあたっては、来館者の安全・快適性を確保して適切に行った。警備・庭園管理については第三者委託により実施した。</p> <p>主に下記の修繕を行った。 ・本館電磁錠交換 ・電話機主装置の基盤取り換え ・ボイラーのバーナー作動不良点検修理</p> <p>防災</p> <p>【札幌芸術の森】</p> <p>下記のとおり、防災訓練等を実施した。 ・第1回消防訓練(総合) 12月4日 ・第2回消防訓練(机上訓練) 3月22日</p> <p>【本郷新記念札幌彫刻美術館】</p> <p>下記のとおり、防災訓練等を実施した。 ・各探知機等の機能確認を兼ねた消防訓練 12月28日</p>	<p>仕様書に則した維持管理業務を行うことができた。</p> <p>状況に応じた適切な修繕を実施することができた。</p> <p>野外美術館の多くの作品が設置から約30年以上経過しているため、外観目視による日常点検では把握することができない内側の劣化も予想され、令和3年度に札幌市による調査が行われた。今後必要な対策のために、札幌市と共に保全方法の検討を進めている。</p> <p>仕様書に則した維持管理業務を行うことができた。 状況に応じた適切な修繕を実施することができた。</p> <p>職員と常駐業者の防災への意識を高めることができた。</p> <p>職員の防災への意識を高めることができた。</p>
--	---	--

(4)事業の計画・実施業務	【札幌芸術の森】	A B C D
	<p>音楽・舞台芸術事業</p> <p>札幌の文化芸術発信事業 サッポロ・シティ・ジャズ2023 札幌の観光文化事業を担う独自のジャズイベントとして開催17回目を迎えた。ジャズの街さっぽろを国内外に発信し、都市のブランド力を高め、観光資源の創出を図るとともに、ジャズによる人材育成や市民参加活動の促進など、魅力ある街づくりに繋がる様々な事業を実施した。</p> <p>シアタージャズライブ 入場者数:2,573人</p> <p>12月、札幌文化芸術劇場hitaruの舞台上にステージと客席を設け、優れた舞台機構を活かしたジャズライブを5日間7公演にわたり実施。ニューヨークから大江千里トリオ、札幌出身の馬場智章などが出演し盛況となった。</p> <p>市民交流プラザを活用した普及事業 入場者数:3,349人</p> <p>施設間連携事業の一環として札幌市民交流プラザの機能を活用し、ジャズの入り口として誰でも気軽にジャズを楽しむことができる「ユニバーサルジャズライブ」や、札幌市図書・情報館とのタイアップによる「ジャズライブラリー」などの事業を開催した。</p>	<p>両施設とも、多様な事業が計画・実施されている。</p> <p>サッポロ・シティ・ジャズでは、体の不自由な方が鑑賞しやすい環境を整えたユニバーサルジャズライブを実施したほか、冬には札幌市民交流プラザを活用したコンサートや地元団体、企業とのタイアップ事業等を開催し、ジャズの裾野拡大に努めた。</p> <p>札幌ジュニアジャズスクールでは、他都市や海外との交流に取り組み、次代を担う子どもたちに、発表や交流活動の貴重な機会を提供した。</p> <p>美術館では、「チームラボ展」を開催し、開館以来、歴代最多の入館者数を記録した。その他、札幌国際芸術祭とも連携し、幅広い層にメディアアートの魅力を知ってもらう機会を提供した。</p> <p>彫刻美術館では、収蔵作品を活用した展示会等、多彩な事業を展開している。また、SCARTSと連携</p>

ビッグバンドプロジェクト
入場者数:734人

世界的ジャズピアニスト、デビッド・マシューズを音楽監督に迎え、地元ミュージシャンで編成した札幌ジャズアンビシャスによるビッグバンドジャズの普及事業を実施した。10月には札幌コンサートホールKitaraにて定期演奏会を行ったほか、11月には道内におけるプロモーションと地域交流を目的として、豊頃町にて現地団体主催の文化事業に出演した。

企業・団体とのタイアップによる事業
入場者数:72,427人

チ・カ・ホを会場としたサッポロ・サウンド・スクエアや、北ガスグループとのタイアップイベントである創成East JAZZなど、さまざまな企業・団体とタイアップし、地域や商業施設でのにぎわいの創出、北海道観光の振興を目的としたジャズライブを開催した。

海外プロモーション
入場者数:延期

海外プロモーションとして予定していた、過去3年にわたるパークジャズライブコンテスト優勝アーティストの海外ジャズフェスティバルへの派遣については、受け入れ先調整の都合により、翌年度に延期とした。

札幌で活動するミュージシャンが集結しビッグバンドとして活動することで、地域のジャズ文化振興に貢献した。また若手ミュージシャンを積極的に登用し活動を支援した。定期演奏会では、クラシックホールであるKitaraの施設の特性を生かし、生音を主体とした演奏を披露。またチケット料金には障がい者・大学生以下の割引を設け、障がいの有無や年齢に関わらず鑑賞しやすい運営に努めた。

さっぽろオータムフェストでの「食と音楽」をテーマにした無料のジャズライブ(入場者数:15,252人)や、ルスツリゾートとのタイアップによる観光客に向けた100日間のロングランライブ(入場者数:15,700人)など、積極的に他イベントや異業種団体との連携に取り組み、ジャズ文化の普及と北海道観光の振興、札幌の街づくりに寄与した。

翌年度に延期。

して彫美連続講座を行うなど、彫刻芸術の情報発信に努めている点は高く評価でき、本市の要求水準を上回っている。

次世代の文化芸術の担い手の育成・支援事業
 第24期札幌ジュニアジャズスクール
 24年目を迎えた当事業では、札幌芸術の森での毎週末を中心とした定期練習のほか、市内外での演奏会開催やイベントでの演奏などの活動を、通年で多数実施した。

北海道ジャズの種プロジェクト
 入場者数:66,431人
 ジュニアジャズ活動の振興を目的とした北海道ジャズの種プロジェクトでは、道内4地域(広尾、ようてい、幕別、砂川)のジャズスクールと連携し、砂川市や留寿都村での合同合宿や、幕別町での合同演奏会「ともだちコンサート」を実施した。また、Seiko Summer Jazz Campのアメリカからの講師陣や、在日米陸軍軍楽隊によるワークショップを開催し、国際交流も図ることができた。

札幌芸術の森バレエセミナー2023
 受講者数:111人(内21人は一般・指導者向け講座受講者)
 見学者数:400人

若手ダンサー育成を目的として33回目を迎えた当セミナーは、パリ・オペラ座バレエ団教師のジル・イゾアールを主任講師に迎え、同団現役エトワールのローラ・エケなど国内外で活躍する講師陣を招き、クラシックからコンテンポラリーまで充実したプログラムで5日間にわたり開催した。特別プログラムとして、過年度受講生でパリ・オペラ座にて活躍するクララ・ムーセーニュと山本小春による公開レッスンや交流会を行った。

札幌ジュニアジャズスクールではオーディションで選考された小学生29名、中学生22名、また北海道ジャズの種プロジェクトでは、総勢57名の小中学生が活動に参加。定期練習や各地域でのさまざまな演奏活動、全スクール間での交流などを通して、芸術による次世代育成事業を充実させ、継続した。一年間の活動の締めくくりとなるファイナルライブは、施設間連携として札幌コンサートホールKitaraの大ホールで開催。前日のミュージックランブとあわせクラシックファンを含む約1,400人が来場した。

コロナ禍期間を含め4年振りに海外講師を招聘。世界レベルの丁寧な指導を受けられる機会を提供し、全国から90人の受講者が集まった。受講者・関係者から高い評価を受け、次世代を担う若手ダンサーたちの育成と支援に貢献した。

北海道グループキャンプ
 受講者数:14人
 入場者数:180人(Final Live)

5年ぶりにアメリカ・ボストンのバークリー音楽大学から現役教授のタイガー大越を招聘し、同音大のメソッドを札幌で受講できる5日間の集中セミナーを3月に開催した。全国から公募し、事前の動画審査で選考した14名の中高生が受講。最終日には成果発表としてFinalLiveを行い、特に優秀と認められた受講者には、バークリー音楽大学のサマープログラムに奨学生として参加できる「バークリー賞」、次年度の北海道グループキャンプに無料で参加できる「グループキャンプ賞」を授与した。また、セミナー開催にあわせ、アウトリーチ事業として校内ジャズバンドを有する中の島小学校を訪問し、タイガー大越によるジャズクリニックと交流会を行った。

芸術文化を通じた市民活動の促進
 パークジャズライブ
 入場者数:32,437人

プロ・アマ問わず市民ミュージシャンに広く発表の機会を与え、音楽による市民活動の促進と市民文化の醸成を目的として、全国から出演者を募集し、7月に2日間にわたり市内10会場で無料ライブを開催した。また、参加者の中から事前の音源審査を通過したファイナリストによるライブ形式でのコンテストを札幌芸術の森で実施し、優勝バンドに国際ジャズフェスティバル出演権を授与した。また、サッポロ・シティ・ジャズ全体を支える市民ボランティア「ジャズセーバーズ」を組織し、パークジャズライブやシアタージャズライブなど各イベントの運営を支える活動を行った。

質の高い文化芸術の創造・提供
 シアタージャズライブ [再掲]

各種団体との連携による文化芸術の振興
 各種団体共催・施設利用促進事業
 入場者数:1,372人

芸術の森施設を活用し、各種団体との共催事業を実施。アートホールでの「Seiko Summer Jazz Camp All Stars in Sapporo」や野外ステージでのダンスミュージックフェス、芸術の森の自然風景を生かしたコスプレイベントなどを共催により実施した。

世界最高峰であるバークリー音楽大学の現役教授タイガー大越による充実したセミナーを実施。特に優秀な成績を修めた受講生が、次年度夏期にバークリー音楽大学で開催される研修への参加権を獲得するなど、次世代の育成に大きく貢献することができた。

2日間で224組の参加者が出演。運営を支えるボランティアには男女問わず10代～80代まで152名が登録。「札幌がジャズの街になる」をテーマに市民が出演し、また運営スタッフとしてイベントづくりに参加することで市民文化活動を促進し魅力ある街づくりに繋がった。また、コンテストの優勝バンドには国際ジャズフェスティバルへの出演権を授与し、若手ミュージシャンの活動を支援した。

共催事業として音楽事業のほか芸術の森園内を活用したイベントを実施し、芸術の森の魅力発信と文化事業振興に貢献した。

芸術の森美術館事業

展覧会事業

展覧会企画数 : 6本

総入館者数 : 240,192人

(自主事業「札幌美術展 艾沢詳子 gathering - 集積する時間」を含む。)

札幌美術展 艾沢詳子 gathering - 集積する時間
会期 令和5年4月15日～6月11日 56日間
入場者数 4,086人

札幌・北海道にゆかりの作家を紹介する「札幌美術展」の第16回として、札幌市を拠点に活動する艾沢詳子(1949-)の個展を開催した。本展では艾沢のこれまでの活動を振り返りつつ、作家が近年関心を寄せるアートとテクノロジーが融合する新作を紹介した。作家の制作に通底する世界観を提示し、多彩な創作活動を続ける作家の全貌に迫った。

STV創立65周年記念 チームラボ 学ぶ! 未来の遊園地と、花と共に生きる動物たち
会期 令和5年7月8日～9月3日 58日間
入場者数 153,735人

最新のテクノロジーを活用し、体験型のデジタルコンテンツの開発を行うアート集団チームラボ。インタラクティブアート作品(花と共に生きる動物たち)のほか、「共創(共同的な創造性、Co-Creation)」をコンセプトにした教育的なプロジェクト「学ぶ! 未来の遊園地」から5つを抜粋し計6作品を展示した。また、展示室内で描いた絵を缶バッジにすることができる「お絵かきファクトリー」も同時開催した。

札幌を拠点に多彩な表現を探求し続けてきた作家の歩みを紹介し、広く市民にその魅力を伝えることができた。観覧者からは「作品に込められたメッセージを想像し、心打たれながら、鑑賞できた」等の声が寄せられ、また、美術館展示室(有料スペース)だけでなく園内屋外スペース(無料スペース)にも作品を展開したため園内の散策者も季節の移ろいにあわせて表情を変える作品を楽しむことができた。

国内外で活躍するチームラボの作品を約6年ぶりに札幌で紹介し、開館以来、歴代最多の入館者数を記録した。家族連れでの来館が目立ち、子どもも大人も一緒に楽しみながら、他者と共同して創造することを学ぶ機会を提供することができた。また、美術に対する新たな関心層の開拓にもつながった。

深堀隆介展 水面のゆらぎの中へ
会期 令和5年9月16日～11月23日 66日間
入場者数 48,308人

金魚に魅せられ、創作を続ける美術作家・深堀隆介(1973-)の北海道初個展。初期の立体作品から、絵画、映像、大規模なインスタレーションなど新作を含む作品291点を一挙に紹介した。深堀が一貫して取り組んできた金魚の造形に改めて焦点を合わせ、描くこと、幻影と物質の同居というリアリズムに対する作家の思想に迫った。

独自の手法により国内外で高い評価を受けている美術作家による質の高い作品を市民に紹介することができた。来場者からも「作品の世界に没入できて楽しかった」、「作品を通して作家の人間性を垣間見ることができて良かった」との声をいただいた。

札幌国際芸術祭2024 明和電機ナンセンスマシン展 in 札幌
会期 令和5年12月16日～令和6年3月3日 63日間
入場者数 16,806人

札幌国際芸術祭2024の会場の一つとして、芸術ユニット「明和電機」の単独展を開催。明和電機は青い作業服を着用し作品を「製品」、ライブを「製品デモンストレーション」と呼ぶなど、日本の高度経済成長を支えた中小企業のスタイルで、「ナンセンスマシン」と呼ばれるユーモラスな機械を開発しライブや展覧会など国内のみならず広く海外でも活動を行っている。

本展では、1993年の創立以来の「ナンセンスマシン」を一堂に集め、プレゼンテーション自体をアートにしてきた活動の軌跡を紹介した。

これまでの明和電機の作品をシリーズごとに時系列で展示し、作家自身の「変化」を伝える構成とした。そのため、来場者からはユーモラスな作風の背景にある深い自己探求の過程を知ることができたとの声が寄せられまた、家族連れでの来館も多く、札幌国際芸術祭の一会場として、幅広い層にメディアアートの魅力を知ってもらうことに貢献した。

札幌国際芸術祭2024 メディアアーツ都市・札幌って知ってました？
会期 令和5年12月16日～令和6年3月3日
入場者数 12,739人 63日間

ユネスコ創造都市ネットワークに「メディアアーツ都市」として加盟している札幌市は、「アート」のみならず、「産業」「テクノロジー」「都市空間」といった幅広い領域を対象に、さまざまな活動を行ってきた。本展では札幌から生まれたテクノロジーやクリエイティブ産業に今一度目を向けて、札幌の「メディアアーツ都市」を紐解いた。

メディアアーツ都市の一事業である札幌国際芸術祭のなかで、札幌における「メディアアーツ」について市民に周知する貴重な機会となった。普段美術館で取り上げることの少ない、テクノロジーや産業にも触れ明和電機展とあわせてメディアアーツの理解を深める機会となった。

札幌芸術の森美術館コレクション選 マスカレード 踊る！仮面の謝肉祭と、霊と共に生きる部族たち
会期 令和5年7月15日～9月18日 66日間
入場者数 38,286人

札幌芸術の森美術館所蔵品の公開を目的とし、工芸館を会場に開催した。
本展では竹岡羊子(1931-)のカーニバルをモチーフとした大型絵画6点と、アフリカ部族の儀式用仮面8点を展示し、「変装」「信仰」という「仮面」の多義性を明らかにした。

野外美術館

期日： 令和5年4月29日～11月3日

入場者数：40,954人

6月3日からは謎解きイベント「白銀の空想ミュージアム」を併せて実施した。
来館者への作品鑑賞サポートとして、野外美術館作品解説ボランティア27名による作品解説を行った。野外美術館の作品鑑賞の手引きとして、「彫刻鑑賞ノート」と、シールを貼りながら作品を楽しく学ぶことができる子ども向けの「シールマップ」を販売した。また、自分のスマホで作品解説を聞ける「ポケット学芸員」の提供を行った。

チームラボ展と同時開催し、「仮面」を切り口に、芸術の森美術館の特色あるコレクションを広く市民に紹介することができた。

来場者からは「展示されている仮面や絵は興味深く面白かった」、「絵から想像出来ることが沢山あって、とても面白かった」等の感想が寄せられ、「仮面」というテーマの斬新さが来場者の記憶に残ったようであった。

当館のコレクションの中から、札幌で活動した画家らの仕事を紹介することができた。また、本展のための調査研究において、原義行作品に描かれた地域を同定することができた。会期中、展覧会の内容や作品について問い合わせがあり、市民の関心を引くテーマ構成でコレクションを公開する事ができた。

野外彫刻の常設展示を開園以来継続しつつ、研鑽を積んだボランティアによる安定した作品解説サービスに加え、イベント実施や様々な鑑賞サポートツールの提供により、利用促進に努めた。

教育普及に関する事業

[佐藤忠良子どもアトリエ]

当財団の中期経営計画の重点取組項目である子どもたちの芸術文化活動の充実に取り組む事業として、彫刻家佐藤忠良作品を中心とした所蔵品を展示するとともに、子どもを主な対象としたワークショップの企画・実施をした。

<ねんどで彫刻>

ブロンズ粘土で自由に彫刻をつくるワークショップ。
期日:令和5年4月1日～7月17日、8月26日～12月10日
土・日・祝に開催した。
平日はワークショップで使用している粘土のテイクアウト販売を行った。
参加者数:423人

<お絵かき相談室>

使用する画材や作品制作の悩みについてスタッフが事前にヒアリングを行い、当日参加者が実際に画材を持ち込み、スタッフからアドバイスを受けながら絵画制作を行った。

参加者数:2名

<岩えのぐで彩色!クリームソーダ>

日本画の材料である岩絵の具とにかわを自身で混ぜて絵の具を作り、日本画の技法を学びながら作品制作を行った。

期日:令和5年8月1日～4日、8日～9日 計6日間、12回

参加者数:45名

<なまえのないめいし>

シールやカードの入ったキットを利用し、ワークショップルームで文字を使わず自由に名刺を作成のうえ、任意で掲示し他の参加者の作品と交換した。

期日:令和5年7月22日、23日、29日、30日、8月5日、6日、11日～20日 計16日間、126回

参加者数:133名

<ちびっこ油絵>

重厚感のある表現ができる油絵の特性を学び、自由に作品制作を行うワークショップを開催した。毎年人気のワークショップで、すぐに定員に達する事から、今年度は2月に追加開催した。

期日:令和5年12月23日、24日、令和6年1月6日～8日、1月13日～14日、1月20日～21日、2月10日～12日 計12日間、24回

参加者数:84名

作品鑑賞及び創作体験の両面で子どもたちが芸術文化にふれる機会を提供した。ワークショップは創作表現の楽しさを体験できる多彩なプログラムを考案し、それぞれ期日前に予約が満席となり、好評を博した。特に「ちびっこ油絵」は本格的な画材を用いながらも気軽に体験ができることから人気があった。常に作品にふれる機会を提供するとともに、子どもたちが気軽に創作活動を体験できるワークショップを継続的に提供し、認知度も上がってきている。子どもたちの創造活動の場として、安定した役割を果たしている。

工芸・工房事業

第23期工芸作品展示事業

工芸館の展示ホールにクラフト作品の展示スペースを
 通年設置。開設から23期目となる今年度も北海道のク
 ラフト作家に展示発表の機会を提供することにより、工
 芸館を訪れた市民が暮らしを豊かに彩る作品と出会
 い、気軽に触れることのできる場を目指した。
 季節ごとに20数人ずつ出展作家を入れ替え、陶芸・木
 工・金工・ガラス・テキスタイルなど北海道に根付いた
 様々なジャンルの作品を紹介・販売した。作品には作
 家からのメッセージなどを添えて、来館者が作り手に対
 してより親しみを持てる展示となるよう工夫した。
 今年度の出品作家は道内で活動する若手を中心にと
 りあげた63人。
 また、工芸作品の一部を芸術の森ホームページにてオ
 ンライン販売し、32,010円の販売実績があった。

会期：令和5年4月29日～令和6年3月3日
 11月18日～12月10日の期間は土日祝日の開場

会場：工芸館展示ホール・クラフトギャラリー「ベストポ
 ケット」
 幹旋販売額：4,970,310円(前年度実績：4,625,450円)
 入場者数：67,088人(前年度実績：41,040人)

北海道陶芸会55周年記念「陶・新時代 - 北からの
 メッセージ - 」
 北海道内のプロ陶芸家で結成された北海道陶芸会が
 創立55周年を記念して、工芸館で作品展を開催。北海
 道陶芸会の会員作家、道外からの招待作家の作品に
 加え、同会と交流のある米国オレゴン陶芸家協会の作
 家による作品も公開された。
 関連企画として期間中には招待作家による作陶デモン
 ストレーション、ワークショップ、ギャラリートーク(作家
 本人による作品解説)、野焼きによる作品製作体験が
 工芸館やクラフト工房などで開催された。

会期：令和5年10月21日～11月5日16日間
 会場：工芸館展示ホール
 主催：札幌芸術の森(札幌市芸術文化財団)、北海道
 陶芸会
 入場者数：5,895人

前年度に引き続き
 芸術の森美術館の
 展覧会関連グッズ
 を工芸館内で隣接
 して販売など、相乗
 効果で多くの来場
 者に展示作品をご
 覧いただけた。

例年になく出品
 作品として、動物を
 モチーフにした木彫
 や木の時計、小樽
 市伝統のガラスの
 浮球のアレンジな
 ど、選定する作品の
 幅を広げ、新たな作
 家の紹介に努め
 た。

会期中はSNSを用
 いて出品作家の主
 な作品を数点ずつ
 日替わりで紹介し
 て、展示の様子を
 幅広くPRしたこと
 によりアクセス数や問
 い合わせが増え、よ
 り多くの方に優れた
 クラフト作品の情報
 を届けることがで
 きた。

北海道陶芸会との
 共催により、工芸館
 で優れたプロの技
 による陶芸作品を
 多くの来館者に公
 開できたことに加え
 て、クラフト工房大
 制作室の作陶設備
 も大いに活用し、プ
 ロ・アマを問わず、
 海外の陶芸家も参
 加した技術交流の
 場として、芸術の森
 の施設を提供し、陶
 芸の魅力を紹介す
 ることができた。

会期中は様々な
 ワークショップが行
 われたが、その一
 環として30数年ぶり
 に園内で行われた
 「土器の野焼き」
 は、特に大きな話題
 を呼んだ。

工芸・版画講習会事業

クラフト工房と各工房において、ものづくりを愛好する人の裾野拡大と技術習得・向上を目的とした講習会を通年で開催した。陶芸、テキスタイル、手織、木工、七宝、ガラス、版画の各分野で、個人向けの講習会と団体向けのグループ講習会、また予約なしで気軽に作品制作が楽しめる「ふらっとクラフト体験」に加え、作家を講師に招いたワークショップや木工房の大型製材機経験者を対象とした大型製材機安全講習会を開催するなど、初心者から上級者までの幅広い層を対象としたプログラムを実施した。

また、ゴールデンウィーク、芸術の森パースデー、夏・冬休みには子どもが参加できる講座を増やし、多くの子どもの参加を促進した。

また前年度に引き続き気軽に制作体験できるキット「おうちdeクラフト」をクラフト工房窓口やオンラインストアなどで販売し、時間や場所に縛られず、ものづくりを体験できる機会を創出した。

(令和5年度は8種を販売)

会期:令和5年4月～令和6年3月

会場:クラフト工房(大・中・小制作室)、木工房、織工房、染工房、版画工房

講習会総実施回数:382回(前年度実績:316回)

講習会総受講者数:4,671人(前年度実績:3,432人)

ふらっと体験参加者数:3,171人(前年度実績:2,148人)

(織機でコースター体験を含む)

ものづくり制作体験キット販売個数:294個(前年度実績:466個)

アウトリーチ事業

札幌市民交流プラザ2階 SCARTSスタジオにて「札幌芸術の森クラフトキャラバン『森のわくわくワークショップ』」を開催し、気軽にものづくりを体験できる場の提供や芸術の森のPRを行った。

会期:令和5年10月7日(土)、8日(日)

実施回数:1回(前年度実績:1回)

実施人数:54人(前年度実績:102人)

滝野すずらん丘陵公園の開園40周年記念イベントにて木工のワークショップを開催し、芸術の森の木工房のPRに務めた。

会期:令和5年7月30日(日)

実施回数:1回

参加人数:7人(今年度初めて開催)

講習会は制作体験だけに留まらず、作ったものを実際に暮らしの中で使えることを目的とした内容で実施した。特に今年度は「手織り仕立てのキッチンツール」のように2つの分野(手織りと木工)を同時に体験できる複合的内容の講習会も実施して好評を得た。

制作技術の向上を望む市民向けには「自由制作教室」を開催したり、外部から講師を招聘するなどして、リピーターの獲得に繋げることができた。

また夏・冬休みの時期には、子どもを中心に当日気軽に参加でき、自由研究にも役立つメニューを工夫したことで、多くの親子連れなどで賑わいを見せた。

工芸分野の普及事業の一環でアウトリーチプログラムに取り組んだ。市内公共施設や公園に出向き、親しみやすいプログラムで、芸術の森に足を運ぶ機会が少ない市民にもアピールし制作体験の機会を創出することができた。

その他の文化芸術事業

芸術の森アートマーケット
札幌芸術の森の園内を会場に、市民アーティストの相互交流や発表の機会の創出を目的に、様々なジャンルの手作りアート作品によるアートマーケットを開催した。

多くの出店者により賑わいを創出することができた。全4回で延べ835人の入場者に足を運んでいただくことができた。

各種団体との提携による文化芸術の振興

野外フェスイベント「BIG FUN」を共催事業として昨年に引き続き、夏の芸術の森野外ステージで開催した。
また、園内の環境を活用し、マンガやアニメのキャラクターに扮するコスプレ撮影イベント「あめいず村」を共催で開催した。

意欲的な試みを実施したい他団体と提携し、芸術の森の施設や事業ノウハウを提供することで、新しい音楽文化の発信を行うことができた。

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

展覧会事業

総入館者数12,548人
(本館9,275人、記念館3,273人)

【本館】

下記の展覧会を開催した。

特別展

「New Eyes 視線の話」

会期: 令和4年12月24日～令和5年4月16日

93日間(令和5年度14日間)

入場者数: 令和5年度343人

「彫刻60年 鈴木吾郎展 悠久を舞う」

会期: 令和5年4月29日～8月27日

104日間

入場者数: 2,598人

「生命体の存在」

会期: 令和5年9月16日～12月17日

78日間

入場者数1,859人

札幌彫刻賞歴代受賞者パネル展

会期: 令和4年9月10日～令和5年4月16日 / 9月16日～令和6年5月26日

86日間(令和5年度158日間)

入場者数: 4,059人(令和5年度2,794人)

「さっぽろ雪像彫刻展2024」

会期: 令和6年1月26日～28日

3日間

入場者数: 1,080人

コレクション展

【記念館】

本郷新の代表作や野外彫刻の石膏原型などの常設展示を行った。

「コレクション展 2022-23」

会期: 令和4年6月11日～令和5年4月16日

257日間(令和5年度14日間)

入場者数: 4,093人(令和5年度314人)

「コレクション展 石と木」

会期: 令和5年4月29日～令和6年5月26日

329日間(令和5年度281日間)

入場者数: 3,127人(令和5年度)

「コレクション展 かく語りき本郷新「彫刻は詩の塊だ!」

会期: 令和6年1月19日～5月26日

111日間(令和5年度63日間)

入場者数: 453人(令和5年度)

特別展では、北海道の彫刻がもつ、風土に根ざした豊かで奥深い表現をそれぞれの展覧会を通じて、幅広い年齢層に紹介することができた。「鈴木吾郎展」では、小樽を拠点に活動する彫刻家によるテラコッタを中心とした温かみのある作風の変遷をたどった。「生命体の存在」では、工芸的な手法を用いながら生命感を感じさせる美術家8人の多様な素材の作品によって、立体表現の多様性と可能性をみせた。「さっぽろ雪像彫刻展」では、雪まつりの雪像とは異なる雪を素材とした彫刻としての雪像を制作展示し、雪国ならではの造形展を提示した。

本郷新を新たな切り口で紹介し、その魅力を多くの人に知ってもらうことができた。「コレクション展 石と木」では、当館が所蔵する本郷新の石彫や木彫作品をすべて展示し、粘土での制作とは異なる大胆な造形性を紹介した。「コレクション展 かく語りき本郷新」では、本郷新が書き残した数多くの文章から、その造形的思考や精神を作品とともに紹介した。また、この展覧会をベースとして、19年ぶりに本郷新の作品集を発行した。

本郷新の業績を顕彰することを目的とした事業

本郷新記念札幌彫刻賞(第4回)
 ・作品募集、選考
 「第4回本郷新記念札幌彫刻賞」
 会期:令和5年3月下旬～9月3日
 応募総数:18点
 選考会:令和5年9月27日
 受賞作品:藤原千也「太陽のふね」
 授賞式:令和5年10月26日

普及事業
 彫美連続講座2023
 実施回数:3回
 参加者数:249人(会場聴講145人、オンライン聴講104人)
 会場:札幌市民交流プラザ(オンラインでも配信)
 造形教室
 ・夏休み造形教室
 参加者数:17人
 ・冬休み造形教室
 参加者数:17人
 館長の日曜講話
 実施回数:13回
 参加者数:371人
 学校協力
 学芸員資格取得希望の大学生を対象とした博物館
 実習(館園実習)の受け入れ
 参加学生数:大学4年生3人(7日間)
 札幌市立大倉山小学校3年生美術館見学
 参加児童数:63人
 札幌西高等学校美術選択1年生展覧会鑑賞
 参加生徒数:68人
 札幌市立啓明中学校職場体験の受け入れ
 参加生徒数:3人
 三角山小学校3年生の総合的な学習の時間枠での
 博物館利用
 参加児童数:延べ148人
 札幌市立宮の森中学校3年生展覧会観覧
 参加生徒数:80人

作品募集を積極的に全国に告知することで前回は上回る応募があった。また、設置場所が屋外の広い場所に変更になったが、そのことを深く考慮した作品が選考され、賞の新たな方向性を示すものとなった。

彫美連続講座は8年目を迎え、彫刻についてさまざまな面から知ることができ、講座として定着してきている。オンライン配信も好評である。
 また、新たに始めた「館長の日曜講話」を頻繁に行うことによって、彫刻に対する理解とともに、当館に対する愛着を深めることができた。
 さらに、近隣の小中高に積極的に働きかけ、来館してもらう機会を増やした。

その他彫刻美術館の設置目的を達成するための事業

促進事業

サンクスデー

実施回数:2回

入館者数:678人(夏345人、秋328人)

さっぽろ雪まつり出品

ボランティア活動の受け入れ

ハロー！ミュージアムで児童への鑑賞指導を行うボランティア(協力員)を受け入れ、実際の活動と事後の研修を行った。また、本郷新の自著をデジタル化する作業を「資料整理ボランティア」の協力のもと行った。

連携事業

財団他施設との連携

・札幌文化芸術交流センター SCARTSと連携して「彫美連続講座」を3回開催した。

サンクスデーでは、展覧会観覧料を無料にするだけでなく、札幌彫刻美術館友の会、札幌アートコミュニケーターズ、近隣店舗などの協力を得てさまざまなプログラムを実施することで、多くの来場者を迎え、当館の魅力を広く知ってもらう機会となった。また、さっぽろ雪まつり大通5丁目会場にて「さっぽろ雪像彫刻展 from 本郷新記念札幌彫刻美術館」と題し、雪像5基を制作展示し、当館の存在を広く周知することができた。

利用促進の取組

札幌芸術の森や文化芸術に気軽に親しんでもらうこと、来園者増を目的としたイベントを8事業開催した。

スプリングフェスタ(てくてくMORIさんぽ・かいだんなんだん?)

有島武郎旧邸でゆったり日本茶のひとつを
野外美術館謎解きイベント・白銀の空想ミュージアム

芸森バースデー2023

ホールでピアノを弾いてみよう! in 札幌芸術の森
フルコンサートピアノ試奏会

あしたのげいもり

芸森かんじきウォーク

芸術の森地区 雪あかりの祭典

恒例の四季イベントに加え、有島武郎没後100年目の命日には、有島武郎旧邸で日本茶インストラクターを招いての日本茶イベントを実施し、好評を得た。また、企画制作集団の異言語Lab.とタイアップし野外美術館での謎解きイベントを開催したほか、冬季の誘客促進として、開園当初より開催している「かんじきウォーク」を実施し、多くのインバウンド観光客も参加した。

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

・施設の利用状況

展覧会事業		R4実績	R5計画	R5実績
本館 展示室	展覧会件数	4	5	5
	開館日数	281	257	259
記念館	展覧会件数	2	2	2
	開館日数	295	257	295
本館入館者数		10,104	9,000	9,275
記念館入館者数		4,422	5,000	3,273

その他事業		R4実績	R5計画	R5実績
本館展示 室利用	利用件数	0	0	1
	利用日数	0	0	5
本館 研修室利 用	利用件数	3	0	0
	利用日数	13	0	0
本館 屋外利用	利用件数	2	0	1
	利用日数	7	0	8

不承認0件、 取消し0件、 減免0件、 還付0件

利用促進の取組

「サンクスデー」として年2回無料開館し、ものづくりやオリジナル飲食物販売など楽しめるプログラムを実施し、幅広い層の来館を促す工夫をした。

本館の入館者数は目標を超えることが出来た。要因として、多彩な特別展の展開が幅広い層の来館につながったことが考えられる。

その他事業では、昨年に引き続き、三角山小学校の総合的学習の時間での博物館利用の機会があった。本館屋外利用は、雪像彫刻展の制作・展示である。

(6)付随業務	広報業務		A B C D
	<p>【札幌芸術の森】</p> <p>広報の充実 園内の各施設の担当者が集まり広報会議を定期的に行い、施設や課、係それぞれが携わる様々な事業について情報を共有し、積極的な情報発信を図った。</p> <p>ホームページによる情報発信の充実 平成28年11月に全面リニューアルのホームページ内容をさらに充実させた。また、季節にあわせてトップページのメイン写真を変更し、芸術の森の自然を含む魅力を伝えた。 サッポロ・シティ・ジャズやバレエセミナー等の情報量が多い事業は、引き続き個別のホームページを設け、ターゲットを絞った情報発信を行った。 ・ホームページアクセス数 R5:2,602,959件 (参考)R4:1,822,301件</p> <p>その他SNSによる情報発信の充実 X、FacebookやInstagramでリアルタイムの情報発信を行った。</p> <p>ニュースリリースによるマスコミへの情報提供 毎週、市政記者室をはじめマスコミ、事業関係者などに、芸術の森の最新情報をリリースする「今週の芸森。」をメールマガジン形式で配信するとともにホームページに掲載し、スピーディな情報発信に努めた。</p> <p>ウェブアクセシビリティ取組確認を実施し、2024年2月26日にホームページに公開した。</p> <p>【本郷新記念札幌彫刻美術館】</p> <p>通常のホームページ運営に加え、FacebookやXなどのSNSでのこまやかな情報発信に努めた。また、宮の森地区連合町内会、近隣小学校へのチラシ配布を通じて地域住民への広報に積極的に取り組んだ。 ホームページアクセス数:32,143件 (参考)R4:30,973件 Facebookフォロワー数:1,245件 (参考)R4:1,171件 Xフォロワー数:5,014件 (参考)R4:4,976件 芸術の森との連携により、広報ツール(ニュースリリースや情報紙もりくる)の共有も行っている。</p> <p>ウェブアクセシビリティ取組確認を2024年3月26日に実施し、結果をホームページに公開した。</p> <p>ホームページの管理・運営にあたっては、日本工業規格JIS X 8341-3:2016の適合レベルAAに準拠するとして「ウェブアクセシビリティ方針」を定めて公開し、利用者の立場に立った情報の提供に努めている。また、同方針に基づいた運用試験を着実にを行うよう準備を進めている。</p> <p>引継ぎ業務 (前回から継続指定のため、引継業務なし)</p>	<p>InstagramをはじめSNSの更新頻度を高め、イベントだけではなく日常的な園内の情報発信に努めた。また、定期的な広報会議によって園全体での外部の広報媒体の活用や連携したホームページ、SNSの発信を行った。</p> <p>SNSの活用により若年層への情報提供ができたほか、地域住民への広報に引き続き注力し、地域での認知度を高めることができた。また、プレスへの直接的な働きかけを地道に行い、事業や取組を記事として取り上げてもらうことができた。</p>	<p>両施設とも、ホームページの充実を図りつつ、SNSの活用によりイベント情報や施設の魅力を発信している。 札幌芸術の森については、ホームページの内容の充実を図るなど、閲覧者に分かりやすい情報発信やSNSを活用したタイムリーな情報発信に努めたほか、マスコミへのニュースリリースによる積極的な情報提供に努めた点は高く評価できる。 札幌彫刻美術館においては、近隣へのチラシ配布、SNS等を利用した広報活動により、地域住民の参加を促し、ファンの獲得に努めている。 以上の工夫をこらした広報活動を行っていることは高く評価でき、本市の要求水準を上回っている。</p>

2 自主事業その他

自主事業		A B C D
<p>自主事業</p> <p>【札幌芸術の森】</p> <p>札幌の文化芸術発信事業 サッポロ・シティ・ジャズ2023 音楽・舞台芸術事業再掲 札幌の観光文化事業を担う独自のジャズイベントとして開催17回目を迎えた。ジャズの街さっぽろを国内外に発信し、都市のブランド力を高め、観光資源の創出を図るとともに、ジャズによる人材育成や市民参加活動の促進など、魅力ある街づくりに繋がる様々な事業を実施した。</p> <p>「札幌美術展 艾沢詳子 gathering - 集積する時間」(札幌市補助事業) 展覧会事業再掲 毎回テーマを設定し、地域の美術家を紹介してきた「札幌美術展」。今回は札幌市を拠点に活動する艾沢詳子(1949-)の個展を開催した。</p> <p>子どもの文化芸術体験事業「ハロー！ミュージアム」 重点取組項目にある子どもたちの芸術文化活動の充実に資する事業として、札幌市の小学校、義務教育学校および特別支援学校小学部の5年生を札幌芸術の森もしくは本郷新記念札幌彫刻美術館に招待し、芸術作品の鑑賞やそれを踏まえた表現活動に取り組む機会を子どもたちに提供した。募集時に活動希望した201校のうち、199校が参加した。熱中症対策等、学校の判断による延期または中止により、日程変更等は20校、中止は2校。学校とは基本的にメールで連絡調整を行い、ホームページや予約システムの導入等オンライン化した業務は概ね円滑に機能している。また、各学校の担当教諭を対象に説明会を開催し、当日の活動を想定した説明や会場の下見を通して理解を深めた結果、鑑賞活動の充実に直結した。</p> <p>コース別参加校数等 ・芸術の森美術館コース:86校89回 ・野外美術館コース:87校87回 ・子どもアトリエコース:10校10回 ・彫美・鑑賞コース:13校18回 ・彫美・表現コース:3校3回 総参加校数:199校207回 総参加児童数:13,949人</p>	<p>音楽・舞台芸術事業「札幌の文化芸術発信事業 サッポロ・シティ・ジャズ2023」と同じ。</p> <p>展覧会事業 同じ</p> <p>長年の継続事業により、作品鑑賞及び表現活動を通じて子どもたちが芸術文化に親しみ、創造力を育む機会を安定的に提供できている。作品鑑賞においては「対話による鑑賞」の手法を用い、自らの気づきを言葉で表現する事を通して見る力を育むとともに、対話の中で個人個人の感じ方が異なる事を肯定することを通して、多様性を認め合う心を育む場ともなっている。</p>	<p>ビュッフェレストランでは札幌近郊の食材を取り入れたメニューを提供しているほか、ミュージアムショップでは、地元作家の作品を展示・販売するなど、地元の魅力をPRする取組を行った。また、オンラインショップも運営し、サービス向上に積極的に努めている。</p> <p>その他、業務委託時に地元企業や福祉施設の活用を意識的に行っており、本市の要求水準を満たす適切な管理運営が行われている。</p>

<p>レストラン事業 センター2階の野菜を中心にしたビュッフェレストラン「ごちそうキッチン 畑のはる」では、北海道産、とりわけ札幌近郊の食材を取り入れたメニューを提供。冬季間は手軽におにぎりや豚汁を楽しめるテイクアウトメニューを提供。また、美術館ではカフェ「ラ・フォルア」を営業した。(利用者:24,485人)</p> <p>売店事業 運営しているミュージアムショップでは、Polaire を直営で運営している。オリジナルグッズや地元アーティストの作品を販売したほか、展覧会関連グッズや展覧会・季節にちなんだフェアを行い集客に努めた。オンラインショップでは、過去の展覧会図録を中心にオリジナル商品の販売を始め来館者へのサービスアップを図った。また、美術館収蔵品をモチーフとしたオリジナルグッズを新たに製作・販売した。</p> <p>【本郷新記念札幌彫刻美術館】 自動販売機を設置し、来場者の利便性向上に努めた。 市内企業等の活用、福祉施策への配慮等</p> <p>【札幌芸術の森】 例年同様、令和5年度も各種保守点検、修繕業務などの再委託については、その大部分を市内の企業に発注している。また、高齢者就労支援業者(シルバー人材センター)に受付業務の一部を委託した。また、福祉施設の活用として、札幌芸術の森美術館で開催される展覧会等の広報印刷物の封入作業や作業着等のクリーニングを、近隣の就労支援施設に発注している。</p> <p>【本郷新記念札幌彫刻美術館】 業務委託、消耗品等の購入は市内の企業を活用した。</p>	<p>道産を中心とした食材にこだわったレストランメニューは、幅広い世代に好評だった。</p> <p>展覧会の内容や取扱グッズのリサーチを行い、展覧会に関連したグッズを販売すると共に地元アーティストの作品やグッズの販売を行うことで来館者の楽しみを増やし、地元アーティストの活動支援にも繋がった。また、オリジナルグッズ開発では、収蔵品をモチーフに使用しグッズを通じて美術館作品の周知に繋げることが期待できる。</p> <p>業務の再委託については、可能な限り市内企業に発注することを徹底した。福祉施設等の利用についても積極的に取り組むことができた。</p>
--	--

3 利用者の満足度

利用者アンケートの結果		A	B	C	D
【札幌芸術の森】		WEBアンケートを実施するなど、回答件数の増加に努めているものの、共催者の意向もありアンケート回答件数は5,000件を下回った。共催者の意向はやむを得ない面はあるものの、アンケートは利用者の声を把握する貴重なツールであり、今後も、要求水準を満たすよう取り組んでいただきたい。			
実施方法	令和5年4月～令和6年3月 施設・事業毎のアンケート用紙を作成し配布。	札幌市の要求水準である5,000件を回収することができなかった。昨年度を下回る回収率となった理由は二つの展覧会でアンケートが実施できなかったため。実施できなかった理由は以下のとおり。 ・チームラボ展：共催のチームラボの意向 ・SIAF：芸術祭事務局が全会場を包括してアンケートをおこなっており施設としてのアンケートが実施できなかったため。			
結果概要	回答3,676件 (施設利用者アンケート454件、事業アンケート3,222件) 施設に対する総合的な満足度は93.5%('とても良い'、'良い'、'普通'の合計)と、例年とほぼ変わらない満足度を維持できた。職員の接遇に対する満足度については99.4%('とても良い'、'良い'、'普通'の合計)と増え、ほぼ100%であった。 いただいた意見や要望については、常駐業者も含め関係者に情報共有し、可能なものから都度迅速に対応するように努力した。	他方、両施設とも、「総合的な満足度」及び「職員の接遇についての満足度」は、本市の要求水準である80%を超えており、高く評価する。			
利用者からの意見・要望とその対応	利用者からの意見や要望に関しては、職員間で情報を共有し、その都度迅速に対応したほか、ホームページ上で対応等含め閲覧できるように対応した。 意見・要望については別添のとおり	WEBアンケートを取り入れアンケートの収集に努めているが、R5年度施設アンケートの回答12件と大きな効果は得られなかった。引き続き要求水準達成に向けて努力する。職員の接遇及び施設については高い評価を得ることができた。展示内容については、利用者からの意見・要望もふまえ、今後もより充実した内容にできるよう努める。			

【本郷新記念札幌彫刻美術館】		
実施方法	無記名の記入方式(通年)	多くの方に回答を頂くことが出来た。引き続き、来館者の期待に応えるように工夫していく。
結果概要	回答858件 来館者の接遇に対する総合的な満足度は約97.1% (「大変良い」、「まあ良い」、「普通」の合計)、施設についての満足度は約97.1% (「とても満足」、「まあ満足」、「普通」の合計)と、総じて高い評価を得ることができた。	
利用者からの意見・要望とその対応	<p>【要望】交通手段が慣れていなくてわからなかった。 【対応】バスの時刻表の掲示や地図の表示を工夫する。</p> <p>【要望】入口の扉がいたんでいて、とっばじめに期待がしぼんだ。 【対応】修繕が可能かどうかを調査。</p> <p>【要望】寒かった。 【対応】煙突工事のためボイラーが使えない時期があった。既に復旧済み。</p>	

4 収支状況

収支		(千円)		
項目	R5年度計画	R5年度決算	差(決算-計画)	
収入	853,493	913,703	60,210	
指定管理業務収入	823,141	882,891	59,750	
指定管理費	688,251	706,929	18,678	
利用料金	57,176	74,424	17,248	
その他	77,714	101,538	23,824	
自主事業収入	30,352	30,812	460	
支出	901,823	922,804	20,981	
指定管理業務支出	861,997	884,803	22,806	
自主事業支出	39,826	38,001	1,825	
収入-支出	48,330	9,101	39,229	
利益還元			0	
法人税等			0	
純利益	48,330	9,101	39,229	

説明

指定管理費について、今期は令和5年4月～令和6年3月までの光熱費高騰分の札幌市による補填を受けたことにより、増収となった。

利用料金収入は主に野外美術館観覧料、工房等利用料、駐車場利用料である。野外美術館への入館者が多かったことで観覧料収益が増加、更に美術館展覧会も好調であったことから入園者が増えたことに伴い、駐車場利用料収益も大きく増収となった。

その他収入とは、講習会受講料、企業協賛金、他の団体からの助成金等以外に実行委員会を構成して実施する事業の決算剰余金の配当も含まれる。美術館で行われたチームラボ展、深堀展が好調であり、それぞれ決算金収益として、23,581千円、6,174千円であった。

指定管理業務支出について、前年度に引き続き光熱費の高騰により費用を要したことなどから、支出増となった。

自主事業については、入園者増に伴い自動販売機の手数料収入が増収となり予算より収支が良化した。

人気の展覧会、謎解きイベントの効果から来園者数増となり、増収となった。支出においては、光熱費高騰を受け、支出は増加したが、これを補うために公的補助金や民間助成金の獲得を行い、収支の回復に務めた。

A	B	C	D

光熱費の高騰による支出増も見られたものの、人気の展覧会や謎解きイベントなどの好調により増収となり、計画比約40,000千円の黒字となった。事業実施にあたっては公的補助金や民間助成金の獲得に努めている。安定的な施設運営を行っていくために、今後も、緻密な事業計画の作成や経費削減に取り組んでもらいたい。

< 確認項目 > 評価項目ではありません。

安定経営能力の維持

当団体の財務状況等は、債務超過、累積欠損の状態になく、自己資本比率が50%以上等のため、経営の健全性が保たれており、安定経営能力が維持されている。

適 不適

個人情報保護条例、情報公開条例、行政手続条例、オンブズマン条例及び暴力団の排除の推進に関する条例への対応

各条例の規定に則り、全て適切に対応した。
情報公開請求については、札幌芸術の森において、1件あった。
暴力団関係については、案件は生じなかった。

適 不適

総合評価

【指定管理者の自己評価】	
総合評価	来年度以降の重点取組事項
<p>【札幌芸術の森】</p> <p>芸術の森では、コロナ禍において野外美術館の無料開放事業や美術企画展の半額補助などの施策が入園者数に大きな効果を及ぼしたが、令和5年度はこうした取り組みがなかったにもかかわらず、総入園者数は年間目標50万人に対し50万3千人余と目標を上回り、開園以来の実績としても歴代3位と、多くの方々にご来園いただいた。</p> <p>目標達成の主な理由は、最新のテクノロジーを活用し体験型のデジタルコンテンツによりファミリー層の集客に大きく貢献したチームラボ展が、美術館歴代1位の15万人を超える突出した来館者数を数えたことが挙げられる。また、秋に開催の深掘隆介展ではライブペインティングや体験企画を展開し、また、札幌国際芸術祭の一環で冬季に開催した明和電機ナンセンスマシーン展では作家による実演パフォーマンスなど、展示会の関連企画を様々開催し集客に努めたことによる。このほか、人気プログラムとして定着した謎解きイベントも夏季営業期間の野外美術館の集客に大きく貢献した。</p> <p>17回目を迎えたサッポロ・シティ・ジャズは、夏開催のパークジャズライブでは、全国から約200組のバンドを集め市内10カ所で演奏を繰り広げ、冬には札幌文化芸術劇場hitaruに特設会場を設け、シアタージャズライブを開催した。企業や民間施設との一年を通じた様々なタイアップでは、インバウンド需要の回復により、アウトリーチ実施件数を大きく伸ばすことができた。</p> <p>また、園内の施設運営では、安定的な施設運営を目的として、駐車回数券の料金改定手続きを行ったほか、利用者目線にたった施設運営を図るべく、貸出施設においては、割引制度の導入、施設予約の運用改正を行い、工房施設では利用者との意見交換会を数度にわたって実施し、利用上の課題を整理した上で工房貸出の運用改正を行った。</p>	<p>第5期指定管理の運営に係る基本方針に基づき事業を実施し、施設運営については前年度に行った各種運用改正の定着を図り、収益や利用者サービスにおいて成果をあげていく。</p> <p>令和6年度は、札幌市アクションプラン「芸術の森魅力向上事業」として、有識者会議を開催し、約一年間にわたり芸術の森の課題整理と将来展望をまとめた提言書の作成を予定していることから、指定管理者として情報提供をはじめ実施に協力していく。また、こうした機会に利用者の声が反映されるよう、各施設において利用者ニーズの把握のため、従前から行っている利用者との意見交換会や聞き取り等を引き続き行う。</p> <p>昭和61年のオープンから40年近く経過し、建物施設だけではなく外構の老朽化や荒廃が進んでいるため、これらについても札幌市と協議しながら安全で快適な空間の確保に努める。</p> <p>野外美術館の作品改修については、令和5年度より進められており、今年度は主要作品の一つ（隠された庭への道）を含む3点を補修する。</p> <p>また、令和7年度に野外ステージ、令和8年度はアートホールと貸出施設の改修工事が予定されていることから、札幌市関係部署と適宜情報交換を行い、工事による利用者への影響を共有し、市民や利用者への適切な情報提供を行い、利用者の活動への影響に配慮する。</p> <p>アフターコロナによるインバウンド需要も追い風となり、来園者数については目標達成となっているが、一方で、人口減やバス事業者の2024年問題など、交通インフラの漸次縮減の見通しもあることから、来園者の交通インフラの確保は重要課題となっている。近隣地域との連携も図りながら、公共交通機関の確保に向けた取り組みを図りたい。</p> <p>あわせて、施設所有のバスの有効活用がますます求められるが、これまで団体利用者に対して行ってきた無料送迎サービスについては、ドライバー人件費等のコストが年々大きくなってきているだけでなく、人員確保そのものが困難となっていることから、持続可能なサービスに向けた検討を実施したい。</p> <p>改めて、アフターコロナにより人員不足の問題が直面する課題として大きくなっている。委託業者だけでなく、財団職員の人員確保についても同様に深刻な問題となっている。「芸術の森魅力向上事業」をはじめ、様々な場面において、持続可能なサービスのための管理体制の見直しを、利用者ニーズとのバランスを図りながら進めていく。</p> <p>こうした観点からも、事業の推進に当たっては、当財団が管理運営している他施設をはじめ、民間組織や各種団体との連携を図ること、芸術の森だけでは成し得ない企画の立案や施設の効率的な活用を図っていく。</p>

<p>【本郷新記念札幌彫刻美術館】</p> <p>前年度、入館者数は目標を超えたが、記念館の入館者数が伸びなかった。</p> <p>展覧会事業では、彫刻家鈴木吾郎の展覧会、8名の作家による彫刻表現の多様性とその可能性に迫った「生命体の存在」、本郷新の遺した言葉を切り口にコレクションを分類し展示した「かく語りき本郷新」展と、多様な展示を行ったことで、幅広い層の入館者を獲得することができた。</p> <p>また、各事業では、アーティストトーク、ギャラリートツアーなどをタイミングよく開催し、展覧会にアクセントをつけるよう試みた。</p> <p>コレクション展では、塑像作品に代表作が多い本郷新の、石や木を彫って作り上げた作品を展示した。</p> <p>第4回本郷新記念札幌彫刻賞の募集では、前回を超える18点の応募をいただいた。</p> <p>その他の事業では、「ハロー・ミュージアム」「館長の日曜講話」「彫美連続講座」「造形教室」などで内容の充実につとめるとともに「サンクスデー」では幅広い層に美術館に来てもらうことができた。</p> <p>近隣の小中高校生の鑑賞など、学校教育への協力も充実した。</p> <p>また、昨年度に引き続き、「第74回さっぽろ雪まつり」に当館選定による雪像作品を制作・出品したことで、多くの人々に美術館の存在をPRすることができた。</p> <p>施設の維持管理については、日々の点検により故障等の早期発見・早期対応に努め、業務仕様書や管理業務の計画書に基づき適切に実施することができた。</p>	<p>本郷新の顕彰、彫刻を中心とした文化芸術の振興という基本に軸足を置き、彫刻美術館の特色を活かした魅力ある事業展開に引き続き努めていく。</p> <p>第 期指定管理の方針に基づき、以下の取り組みを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本郷新作品と関連資料の収集・保管、調査・研究、展示・公開を行い、その現代的な価値を引き出しながら、多角的に顕彰していく。 ・札幌、北海道ゆかりの彫刻家や、彫刻を核とする立体表現の多彩な動向にも視点を広げ、彫刻芸術を中心とした芸術文化の振興を図る。 ・子どもや若年層への普及、鑑賞・学習機会の創出など、幅広く市民の美術館利用や芸術活動への参加を促し、「次世代の芸術家の育成」という本郷新の遺志の実現を図る。 ・市民に開かれた施設運営を行い、近隣の学校や文化・商業施設、関係団体などとの連携を推進し、広く市民に愛される美術館を目指す。
--	---

【所管局の評価】	
総合評価	改善指導・指示事項
<p>両施設とも、全般的に本市の要求水準を満たしており、適切な運営管理がなされている。</p> <p>芸術の森では、多彩な展覧会を実施し、開園以来最多の入場者数を記録する展覧会もあった。また、謎解きなどの野外美術館を活用したイベントを実施するなど、創意工夫をしながら事業実施に努めた点は高く評価できる。</p> <p>彫刻美術館では、主催展覧会のほか、多彩な普及事業を開催する等により来館者を伸ばしており、多くの市民に文化芸術に触れる機会を提供したことについて高く評価できる。</p> <p>芸術の森の収支状況については、光熱費の高騰等により全体としてマイナス決算であり、厳しい経営状況が続いている。民間助成金の獲得等に努めるとともに、安定的な施設運営を行っていくために事業内容の見直しや効率化を図り、経費削減に一層取り組んでいく必要がある。</p> <p>芸術の森においては過去に職員の作業中の転落事故やメール送信時の個人情報流出などの事案が発生しているが、即座に再発防止に向けた対応をしている。引き続き職員の安全教育、コンプライアンス教育を強化していく必要がある。</p>	<p>芸術の森、彫刻美術館ともに、工夫を凝らした事業を数多く実施しており、今後も業務計画書に沿って魅力ある多彩な事業の実施に努めていただきたい。</p> <p>経営面においては、民間助成金等の財源確保、経費削減及び事業収入の向上に引き続き努めていただきたい。</p> <p>また、経理関係事務の再点検、適切な業務の記録と保存、管理監督者の役割及び意識の徹底、適切なサイクルでの配置転換、職員の安全衛生管理、コンプライアンス研修の実施、財団所管の実行委員会に対する内部監査の実施、これらの取組状況の報告について、引き続き取り組むこと。</p>